

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター英賀保

作成者: 西田 文

作成日: 2025年 3月 31日

運営推進会議における評価実施日: 2025年 3月25日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
I.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活していただける施設、ご家族様や地域の絆、地域のふれあいをたいせつにし、安心して暮らしていただける」を理念に置き取り組んでいます。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A	自治会のお祭りに読んでいただき交流が来ている		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	運営推進会議では地域包括センターでの活動について教えていただいた、利用者様と参加できるものには行ってみたいと思う		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	今年度は管理者の変更が繰り返され連携等が不十分であったが、実地指導があり協力関係は築くことができた。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	身体拘束廃止委員会の実施を月に1回行い、身体拘束になりうる事案の検討をおこなっている。また委員会での話し合いは職員ミーティングにて職員も考える場を作り対策を検討している。	A	身体拘束についての事例については報告がないのでないものと確認している

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	A	虐待の意要因となるようなストレスが溜まっていないか面談を行い職員の心のケアに努めている。	B	職員さんの異動や新規配置などを聞いているため、研修などで職員間と情報共有しているか報告があればよいと思う
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	現実成年後見人が必要な方がおられないが、必要性や関係者を紹介できる様に人とのつながりを持っていく		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	契約は十分な時間を持ち、質問等にも答えながら行っている。納得していただいた契約をしている。介護報酬改定時も運営推進会議での情報提供する。契約時に重度化について話し対応を考えていただいている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	お客様には、常にお話を聞かせて頂き、家族様には来所時にお話を伺ったり、お電話があった時に意見を伺っている。年に一回のニチイからのアンケートをお送りしての顧客満足度調査を実施して要望お伺いしている。	B	家族からの意見徴収の仕組みなどがあれば運営推進会議でも教えていただけるとよいと思います
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A	月に1回の業務ミーティングや随時職員の意見を聞いて仕事に打ち込みやすい職場になるように意見を交換している		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	業務ミーティングを開催し意見をみなで共有しお客様の問題点など話をしている。また、日常の中でも疑問や、問題点があった時はその都度話を出来る環境を作るようにしている。		
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	社内でのスキルアップ制度等個々のスキルアップ・意欲向上につなげるように努力している。		
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	なかなか外部の方とのコミュニケーションはとりにくい状態だったが、姫路市のグループホーム連絡会や会社の研修を利用してサービスの質の向上を目指している		

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	C	職員主体の時間配分で業務を行っていることがあるため改善していく必要がある		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	時々には馴染みのある自宅で過ごしたいという方もおられるため、外泊などその方の希望する手段で支援を継続している		
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	一人一人のお客様の希望に沿って支援できるようその人が何を望んでいるか職員で話し合っている		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	モニタリングは職員に記入を依頼し計画書に反映している。ご家族が来られた際は、状況をお伝えしている。何か課題・問題点があればその都度職員・家族様に相談しながら対応している。		
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	日々の状況は介護記録に記入しているが、変化があれば日誌に記入し職員間で共有している。		
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	ADLの維持向上が必要な方は訪問リハビリを利用いただいたり家族様と相談しながら支援を続けている。現状インフォーマルなサービスに繋げることは出来ていない。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	往診医・訪問看護・自治会長・民生委員・ボランティアさんに支えられている。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	従来からのかかりつけ医か協力医の定期訪問診療（月2回）を希望されるか家族様に説明し、選択していただいています。どちらを選ばれても適切な医療を受けていただけるようにはしている。病院が処方の方のみの対応もある為細やかな状態を報告して家族様から伝えて頂く様にしている		

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院時は日常生活や必要な情報を提供している。ご家族の希望等を日頃より伺い病院にもお話出来る様にしている。退院時には退院時カンファレンスに参加させて頂いている。サマリーなど必要な記録は病院担当者から提供していただいている		
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	契約していただくときには、説明をしている。可能な限り生活を継続していただけるように家族様・医療関係者には相談している。医療が常時必要な状態では、当施設での生活を継続できないので、ターミナルも含めお客様の希望を把握して相談している。GHでは難しい状態になってきたら家族様と相談し、ご本人にとって幸せな生活の場が何処にあるか説明して移動場所も一緒に検討している。		
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	マニュアルを使い緊急時の対応と連携に対しては研修を行っているが、何をまず行わないといけないかは指導している。救急搬送に必要な書類や状態は連携手帳を作り常時フロアに設置している		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	年2回の避難訓練を実施し、その内の1回は消防署職員から災害時の対応を指導受けている。またBCPの策定を行い。避難についても運営推進会議にて自治会長に確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	個々の人格・尊厳を尊重しお客様と顔・目を合わせて丁寧な言葉で話をするように心がけている。しかし家族のような雰囲気も大切にしている。職員の中には播州弁が強く言葉遣いが悪い為その都度注意して改善できる様に指導を続けている。		
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	人員が不足し、介護度も高いためどうしても介護度の高い方の介助が先になるが、ご本人の出来る事を継続していく支援が少しずつできている		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B	季節を感じ取れるように食材で提供している。見た目も大事なので色合いも気にしての食事提供を心がけている。お客様には、調理・食材洗い・食器洗い・食器拭き等できることを見極め依頼している。	B	行事食などに力を入れておられることを確認しています

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	体重管理も必要に応じ行い、食事量・水分量もしっかり一覧表でわかるように管理している。嚥下機能に応じてトロミ剤、キザミをお客様に応じて対応している。医師との連携をはかりアルブミン値や栄養状態の指導も得ている		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後の口腔ケアの実施と半年に一度のLIFEによるチェック、お客様により歯科医の往診によりケアを行う事で誤嚥性肺炎のリスクが低下している。家族様のご協力もあり一人一人の状態にあった方法を実施できている		
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	自力でのトイレを利用されている方でもパッドが濡れる前には声掛けをしています。自力が難しい方は、排泄リズムを把握し定期のトイレ誘導を行う。体調に合わせたオムツや紙パンツの利用で失敗が無い様に清潔に配慮しながら支援をしている		
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	入浴は個人の身体の状態に合わせて行い、入浴できるかのお客様に確認している		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	夜間の就寝はお客様に応じて誘導対応している。昼夜逆転にならないように気を使っている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	服薬の変更等があったときはお客様の状況変化の様子観察を行い状態が変わればすぐに往診医または家族様に連絡し相談指示を仰ぐようにして居る。副作用については職員にも申し送りしている。処方箋のコピーをフロアに配置して職員も理解しやすくしている		
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	家事の手伝いや制作活動に参加して役割を持った生活を送ることが出来るよう努力している		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	感染予防をしながらの外出や外泊を行っている		

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議における 外部評価	記述
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D	お客様でのお金の管理は難しいのでお小遣い金として上限1万円まで預かり、希望に沿ったものを購入させて頂いたりと管理させていただいている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	事務所の電話を使い家族様と電話をしていただくこともある		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	リビング等に季節に合った制作物等を飾っている。室内温度は季節に合った温度に調整している。明るさは目に優しい照明を付けている。冬は、床暖を点けることで足元の冷えを予防し、健康に配慮している。	A	季節にあった創作物などを入居者の方と作られていることを確認しています
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B	日々の生活を送る中で、今何がしたいか、どうして欲しいかなど意思を確認する機会を増やしている		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	職員の指導の中にアセスメントの活用ができる様に計画作成者が話していく		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	体調をみながら必要な援助を行っている		

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	今までできていたことへの継続をしながらご本人のペースに合わせていける様にしている		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A	自室には安全に配慮しながらご本人のなじみのものを置くように心がけている		
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	B	感染予防をしながら地域のお祭りの参加やお出かけをしている		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A	職員の声掛けで製作や家事などしていただき、できることの継続を大切にしている		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	お客様と何気ない会話を楽しめるような施設を目指している		
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A	地域の祭りに参加したり、秋祭りの御神輿に施設にきて頂いたり地域交流をしている。		
49	総合	本人は、このGHIにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	面会の機会も増え、家族様だけでなく近隣の方にあう機会も増やしていける様になっている	C	入居者の日々の生活状況や面会、外出、入退院時におけるグループホームの取り組み状況や方針なども、運営推進会議で参加する方へわかりやすく情報提供できれば良いと思います

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
-----	------	------	-------------	----	----------------------------	----

総評

感染症対策をしながら、近隣の地域の方やご家族様と触れ合う時間を増やして欲しい

現状における ご指摘事項・事業所の課題

地域の方との交流の機会を増やす必要がある
外部の研修などを受ける機会を増やし、より良いケアを目指していく必要がある

参加者サイン欄

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	お金の所持や使う事の支援が出来ていない	トラブル無くお金を持って買物に出られる	お金はお小遣い金のみ事務所に預かったものを少しずつ持って頂き、近隣のスーパーなどの買物に介護職員と一緒にいく	6ヶ月
2	27	職員側の決まりや都合を優先し、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを守れていない	人員が不足し、介護度も高いためどうしても介護度の高い方の介助が先になるが、ご本人の出来る事を自分のペースで行うことを継続していく支援ができるようになる	お客様が今何をしてほしいか、何を求めているかを優先した支援を行えるよう、研修を行う。お客様のペースに合わせた支援ができるよう業務内容を見直す	6ヶ月
3	48	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をする必要がある	お客様それぞれのできることを理解し、それを役割として割り振ることで張り合いのある生活を送ることが出来る	お客様のできることに注目し、役割として渡せるよう洗濯物たたみや食器拭きといった家事以外にも制作活動など日々行うことのできるものを準備をする	6ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。